

ニシアラヤ 西荒屋 河北郡井上庄なる荒屋は明治に至つて西荒屋と改められた。

ニシイチノセ 西市瀬 石川郡湯涌郷に屬する部落。寶永誌に、この村領の内に經塚といふがある。一尺四方程の石のうちを七八寸程割り、その上に丸き石を蓋にしてあると記す。

ニシイツミ 西泉 石川郡富樫庄に屬する部落。西泉は上中下三ヶ所に分かれてゐるが、その下村を相河と稱する。(今愛河に作る。)また菊大路文書天文十五年六月十八日附で藤木法眼御坊宛所のものに、加州西泉勘定狀がある。

ニシインナイ 西院内 鳳至郡南志見郷に屬する部落。初め西光寺の院内であつたから、元和の頃までは西院内と書き、寛永の頃は西院内とも西印内とも書き、正保・寛文・貞享の高辻帳に西印内としたが、元祿十五年十二月三日西院内に定めた。

ニシウミゴウ 西海郷 珠洲郡に屬し、藩政時代には眞浦・仁江・清水・片岩・長橋・大谷・馬糞・笹波・高屋の九ヶ村を含んでゐた。

ニシウミサバ 西海鯖 鳳至郡の西海七浦に産する鯖をいふ。能登名跡志に、『鹿磯村より輪島まで西海七浦の郷とて村々多し。西海鯖とて刺鯖・鹽辛類名産なり。』と記す。

ニシウミシモウラ 西海下浦 珠洲郡に屬する。天正十三年十二月十六日附前田利家の西海下浦に與へた皆濟狀があり、そのうちに『頼兼にふち』など見ゆるから、西海郷中大谷から東北をいふやうである。

ニシウミナナウラ 西海七浦 鳳至郡に屬する。能登誌には深見・大澤・五十洲・皆月・鶴

入下山・光浦を數へ、三州大路水經には鹿磯・深見・吉浦・五十洲・皆月・大澤・輪島を數へる。しかれば七浦とは多數海村の意で、定つてゐるわけではあるまい。元祿の書上帳に、皆月・五十洲・鹿磯・深見・吉浦の産物を、刺鯖・鯖子・脊腸・鯖きずし・干鯛・鰯・皮・鰯きずし・塩鱈・塩あら・塩しいら・張蛸・黒海苔と掲げてゐる。

ニシウミハツケイ 西海八景 鳳至郡西海七浦附近の勝景を數へたもので、諸葛明月・寺口鳴鐘・道下行旅・大澤群嶋・深見瀑布・黒嶋白浪・皆月漁舟・鹿磯潮聲をいひ、享保十年原元昭の和歌がある。

ニシオホタ 西太田 羽咋郡邑知院内富永保の太田は、加賀藩領と土方領との混じた部落であつたが、明治中に至り東太田・太田に分ち、次に東太田・西太田とし、更に一の太田に併合した。

ニシオホノ 西大野 鳳至郡河原田郷大野を、明治に至り西大野と改めた。

ニシカガツメ 西蚊ヶ爪 石川郡鞍月庄に屬する部落。もと西加賀爪と書いたが、元祿十五年十二月二日西蚊爪に改めた。

ニシカサマホ 西笠間保 ↓カサマホ 笠間保。

ニシカハ 西川 白山比咩神社の舊社地に沿ふ安久瀨淵あたりの手取川を西川と呼んだ。白山宮莊嚴講中記録延應元年の條に、白山本宮の社殿が、その神主氏盛の宮倉から失火した爲鳥有に歸したことを記して、『神主女房自西川岸令落逝去畢。』といふものはである。又永正五年の白山禪定私記に、泰澄の事蹟を載せて、『靈龜二年に下白山の舟岡の遊り

妙法の石室に入りて觀念し、夢中に貴女の白馬に乗りて、此の舟岡に住なれ、西河の深淵に遊び給ふよし託宣あり。』といふ西河も之に同じい。又天正八年と推定せられる波々伯部三河守秀次が七月六日附の書狀は、『賀州表之儀、去月廿三日に於西河口合戰候而、御山之人數二百余うちとられ候。』とあるは、山内衆が佐久間勢を破つたことをいふもので、亦ニシ河であらう。犀川に西川の字を借用することもあるが、それとこれとを混同してはならぬ。

ニシカハキチベエ 西川吉平 河北郡大場の農。文化四年八月出生。初名吉平、後長右衛門と改めた。嘉永六年六月吉平田間を巡つて異種の稻を發見し、培養三四年を重ねてその從來嘗て見ざる良品なることを知つた。後に吉平坊主又は大場坊主と言はれたものはである。明治十一年二月歿。大正二年十月農商務大臣から追賞を得た。

ニシカハシヨウダツ 西川松達 珠洲郡飯田の人。通稱源七郎。賜賞齋とも號した。天保元年正月十二日生まれ、三歳にして筆硯に親しみ、神童の名諸方に傳へられ、九歳の時前田齊泰之を召し、面前に於いて壽の一字を書いて金二百疋・江戸扇等を賜はり、又十歳の時京に上り筆跡を天覽に供して嘉納せられた。菊模樣附硯箱及び硯一面を賜はつた。後貫名海屋に就いたが、眼疾を得て故山に歸り、明治廿三年七月三十日歿。

ニシカミバヤシ 西上林 石川郡上林の内の小字。

ニシキガハ 錦川 八雲御抄能登の名所にしき川を擧げてゐるのは、饒石川の誤であ

る。又錦川の歌とて、源仲正の『紅葉ちる山下水は染ませの錦川とぞ見えたりたる』を引くものもあるが、是は強ち地名とも見られず、假令地名にしても能登のことではあるまい。

ニシギンサンガ 西岸三ヶ 鹿島郡能登島通・田尻・久木の三部落をいふ。島嶼の最西端にある意であらう。通と田・尻との間に氏神八幡神社があり、舊曆九月十四日の祭禮に久木の濱で躍る唱歌に、『西岸三ヶの濱に相撲も躍もかりもりや』とうたふ。かりもりは物の終末をいふ方言である。

ニシキノハマ 錦の濱 羽咋郡福浦領なる鷹巢嶽附近の海濱をいふ。小貝の交つた美しい砂があつて、壁の材料に用ひられた。

ニシゴボウマチ 西御坊町 金澤の舊町名。昔は西末寺町とも呼び、明治四年四月戸籍編成の時西御坊町を五寶町と改稱した。

ニシサカセン 西坂宣 金澤の人。諱は宣、字は君迪、通稱辰之助。衷の弟である。學を好み、筆札を能くし、凡百の末技爲さるることなく、嘗て笛及び筆を作つて京洛の産に劣らずと稱せられた。安政三年五月二日歿。

ニシサカチウ 西坂衷 諱は衷、通稱錫、字は子衷又は天錫、成庵・謙山・椿臺主人の號がある。初め藩儒大島費川に學び、天保中江戸の昌平塾に入り、安積良齋・古賀若溪・大槻磐溪・大橋訥庵・江尻實山等と親交を結んだ。歸藩の後嘉永六年明倫堂助教に任じ、四書匯參・監本四書・欽定四經の校正改點及び史記考異の編輯を命ぜられた。衷の私塾は孝友堂といひ、前後就いて學者二千數百人に上つた。著す所に垂統別史(藩祖盛烈記)・本藩世紀・本